

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／大石 雅章

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

①科研の申請のテーマとして、日本中世寺院研究を踏まえながら、中世から近世にかけて大きく変動する宗教や寺社の社会的機能(宗教的呪術的価値観の後退、人間謳歌の文化の登場)を検討し準備する。とくにヨーロッパの宗教改革・ルネッサンスとの比較も視野に入れながらすすめたい。
②遍路研究については、すでに愛媛大学が申請する予定であり、その分担執筆者として協力することになっている。本学のこれまでの教育まで含めた教育研究活動の成果を踏まえて、今後どのような内容で独自に科研に申請できるか、テーマを検討し、可能ならば提出したいと考える。

2. 点検・評価

①大学の業務や日常の授業およびゼミ生指導および学外の仕事にも追われ、どうして科研申請の準備のための研究等の時間がとれず、申請するまでにはいたらなかった。とくに中世から近世の日本史をヨーロッパ史との比較で検討することを考えれば、それに見合う研究体制も組織しなければならず、その面からも十分な準備ができなかった。来年度には応募できるよう極力つとめたい。
②遍路研究については、愛媛大学の申請の分担者として協力することになったため、科研に独自に申請するまでには到らなかった。テーマの内容を深め検討するための時間をいかに作るかが今後の課題である。
来年度に向けて、上記の状況を改善できるよう極力努める。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

①学会・会議などで大学の充実した教員養成教育を他大学の先生に説明し院生定員確保に努める。また時間的に可能ならば、研究関係者を通じて大学を訪問し、学生に対して説明を行う場を設けてもらうなどの対策を実施する。
②就職支援担当の副学長として、長期履修生等の大学院生の教採合格率の上昇、特に正規合格者の増加を目指して、可能な限り努力することにより、就職面から大学院学生の定員充足にとって良い環境作りに努めたい。

2. 点検・評価

①学会・会議などで大学の充実した教員養成教育を他大学の先生に説明し院生定員確保に努めた。また時間的に可能ならば、研究関係者を通じて大学を訪問し、学生に対して説明を行う場を設けてもらうなどの対策を実施する予定にしているが、なかなか本務の日程が埋まっており、大学訪問による説明会は実施し得ていないが、今後時間を割きできるだけ取り組みたい。
②就職支援担当の副学長として、長期履修生等の大学院生の教採合格率の上昇、特に正規合格者の増加を目指して努めている。その成果は十分とはいえないが、平成24年・25年の教採試験ではそれぞれ増加させることができた。大学院生ではないが、平成24年3月卒業の学部生の就職率は教職員の協力を得て、昨年度よりアップさせ、初めて80%代にすることができた。就職支援体制の改善を極力はかり、就職面から大学院学生の定員充足にと就職支援体制の改善を極力はかり、就職面から大学院学生の定員充足にとって良い環境作りに努めた。なお、25年3月の卒業生は、大学院への進学希望者が多く、そのため就職率は予想を下回ることとなった。来年度もさらにトップ上位を常態化するよう努めたい。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①授業では、受講生が教員としての実力を高めるために、実践的な授業づくりに努め、学生の意見にも積極的に応える。また四国遍路に関する地域社会支援へのボランティア活動を通じて、学生たちの教員としての資質を高めるよう努める。

②学生生活においては、学生支援担当の副学長として、本学の学生生活の指導とその環境の充実に努める。また教員としては指導学生を中心に学生とのコミュニケーションを絶やさず、彼らが学ぶに支障のない生活環境を維持できるよう、可能な限り支援する。

2. 点検・評価

①授業では、受講生が教員としての実力を高めるために、教科書の記述も参考にしながら、写真や絵画資料も活用した実践的な授業づくりに努め、学生の意見にも積極的に応えた。また四国遍路に関する地域社会支援では、公開講座「遍路道の遺産を訪ねる」等を実施し、ボランティア活動を通じて、学生たちの教員としての資質を高めるよう努めた。

②学生生活においては、学生支援担当の副学長として、本学の学生生活の指導とその環境の充実に努めている。また教員としては指導学生を中心に学生とのコミュニケーションを絶やさず、彼らが学ぶに支障のない生活環境を維持できるよう、可能な限り支援した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

①本学の特色となっている教育実践力を見据えた遍路を活用した教育研究活動をチームとしてすすめる。

②自らの研究テーマである中世寺院史研究をさらにすすめる。それにあわせて、教育においてもその成果を活用できるように努める。

2. 点検・評価

①本学の特色となっている教育実践力を見据えた遍路を活用した教育研究活動をチームとしてすすめ、学部授業「阿波学」、大学院授業「地域文化と四国遍路」、藤原伸彦先生を中核とする「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」主催の小学生対象の歩き遍路、公開講座「遍路道の遺産を考える」を実施し、また町田哲准教授(主査)の県の委託事業として、遍路道と遍路寺院の調査を行い、その成果報告書である徳島県・徳島県教育委員会編『舎心山常住院太龍寺』(「四国八十八カ所霊場と遍路道」調査報告書3)を出した。

②自らの研究テーマである中世寺院史研究をさらにすすめ、それにあわせて、教育においてもその成果を活用できるように努めた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 学生生活支援・就職支援担当副学長として、責任を果たせるよう可能な限り努め、とくに専門職の大学として学生のキャリアアップを目指した教育支援(就職支援)および大学生活支援をすすめ、その成果が大いに発揮できるよう努める。
- ② 第2期中期目標が必ず達成できるよう、学生支援委員会・就職委員会などを通じて学内の運営に努める。

2. 点検・評価

- ① 学生生活支援・就職支援担当副学長として、責任を果たせるよう可能な限り努め、とくに専門職職業人として教員養成大学として学生のキャリアアップを目指した教育支援(就職支援)および大学生活支援をすすめ、その成果が大いに発揮できるよう努めた。
- ② 第2期中期目標が必ず達成できるよう、学生支援委員会・就職委員会などを通じて学内の運営に努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属学校との実習など含め実践的な教育活動を、副学長として学生生活支援から可能な限り支援する。また教員として、指導学生をはじめ学生の実習などを支援する。
- ② 地域に根ざした大学を支える教員として、社会との連携に可能な限り努める。とくに四国遍路プロジェクト等で形成された地域社会との連携やそのノーハーを活かして、大学の社会連携活動を支援する。

2. 点検・評価

- ① 附属学校との実習など含め実践的な教育活動を、副学長として学生生活支援から可能な限り支援した。また教員として、附属中学校・小学校だけでなく、長期履修生の実習支援と指導のために、松茂町立喜来小学校、北島町立北島小学校、北島南小学校を訪問した。
- ② 地域に根ざした大学を支える教員として、松茂町教育委員会による松茂図書館と大学連携講座を今年も企画して実施するなど社会との連携に可能な限り努めた。四国遍路プロジェクト等で形成された地域社会との連携やそのノーハーを活かして、四国遍路の世界遺産へ向けての文化財指定のための「阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会」の委員を勤め、またアサヒビール主催の遍路通ゴミ拾いボランティアにも協力するなど、大学の社会連携活動を支援した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)